

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

島根県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	大学・高専等の若年層献血セミナーの実施	大学生、高専生、その他若年層	5回、800人
2	高校での献血出前教室の実施	高校生	2回、150人
3	高校、専門学校、短大、大学での学内献血の実施	高校3年生、専門学校生、短大生、大学生	高校20校、専門学校、短大、大学各2回以上
4	若年層向けのイベント・キャンペーンの実施	若年層	2回、300人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	協賛企業の募集	献血協力企業	10社新規登録
2	協賛団体の募集	学生献血推進サークル、ライオンズクラブ	5団体新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未加入の献血経験者	400人
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人以上
3	ハガキによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
4	複数回献血クラブ感謝の集い実施	複数回献血クラブ会員等	1回、300人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岡山県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	県内各大学、短大、専門学校	新規加盟2校
2	運転免許センターへの移動採血	10代、20代の若者を中心とした献血可能者	68稼動
3	学生献血推進ボランティア組織の研修会開催	岡山県学生献血推進連盟加盟校学生	1回開催、参加40名
4	夏休み小学生親子体験教室	県内各小学生および保護者	15回開催 650名参加 参加校数125校
5	赤十字出前講座の実施	県内各高校の内実施希望校	10校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	未実施協力団体	30社新規登録
2	年複数回実施協力団体の確保	年1回実施協力団体	30社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	同一献血会場での過去献血者	応諾者数(実協力者数)12,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	20カ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設における成分献血の確保	血小板成分献血者	血小板成分献血の実献血者を4,500人確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

広島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血セミナー	広島県大学献血推進協議会メンバー	2回実施(150名)
2	大学(短大含む)専門学校・高校献血の実施	大学生(短大生含む)・専門学校生・高校生	移動献血での献血者数:4,200名
3	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)	25,000部配布
4	親子献血教室	小・中・高校生	15回実施600名参加(出張献血教室含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	献血未実施団体及び献血会場周辺企業	新規献血団体10団体確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血者・血小板献血者	要請者数25,000人
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ登録者	3,000人登録 不足時にタイムリーに要請

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山口県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー開催	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	年間15回開催 参加者数 500名以上
2	はがき・電話による協力要請	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数14,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び献血会場周辺企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商工会連合	20
2	緊急時要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等による献血実施できなくなった企業・団体	30
1	複数回献血クラブ会員に対しメールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員(1,100名)	応諾者数(実協力者数)300名
2	複数回献血クラブ「チーム35」情報パンフレット作成	献血者・事業所・行政機関	作成枚数:40,000枚
3	県・市町職員献血協力者名簿の活用	県・市町職員協力者名簿提出者に対する協力要請	応諾者数(実協力者数)1,000名
4	はがき・電話による協力要請	前回採血から一定期間未献血者	年間 30,000人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	年間を通してのキャンペーン実施(マスメディアとタイアップしたイベント企画)	400mL献血可能者	キャンペーン展開により、一稼働当たりの献血者確保目指す。(46.0人)
2	各協力団体の実施回数増の要請(ライオンズクラブ・ロータリークラブ・青年会議所等)	各会員の更なる協力者を得る。	献血者数10%アップを図る。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

徳島県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	夏休み親子血液ゼミナール	小学生(4~6年生)と保護者	7回開催(参加者350名)
2	JRC献血セミナー	県下JRCメンバー	1回開催
3	学内献血パネル展	県内3大学	3回開催
4	情報誌の利用強化	県内各情報誌読者(10代~30代中心)	10回掲載(キャンペーン告知含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	複数回メールクラブ会員登録の増加事業	新規登録者	新規登録者400人
2	メールによる献血要請	複数回メールクラブ員	発信回数50回
3	ハガキによる献血要請	誕生月献血(400ml・成分)、成分献血	1000通/月の発送、応諾率18%

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキによる献血要請(移動採血巡回場所)	前回実施市町村での400ml献血協力者	600通/月の発送、応諾率30%
2	懸垂幕の掲示	固定施設付近通行者	1人/日の献血者増員
3	献血協力事業所(日赤有功会)の協力確保	日赤有功会に参加している事業所	2人/1移動採血、40移動採血/年

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

香川県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	高校生街頭献血キャンペーン	高校生	年間2回 50名
2	高校生献血サポーター	高校生	年間4回 80名
3	献血セミナー	大学・専門学校・高等学校	年間5回 200名
4	施設見学	小学生	年間3回 150名
5	小学校出前講座	小学生	年間10回 300名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼働50人以上
2	新規献血協力企業・団体確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社
3	休眠企業の掘り起こし	数年間・献血未実施企業・団体	協力団体50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがき・電話による依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	平日の献血者増	全献血者	2人/日を目標とする。
2	次回献血の予約	成分献血者	6人/日を目標とする。
3	献血協賛事業	献血ルーム近郊の事業所及び専門学校	2人/日を目標とする。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

徳島県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	夏休み親子血液ゼミナール	小学生(4～6年生)と保護者	7回開催(参加者350名)
2	JRC献血セミナー	県下JRCメンバー	1回開催
3	学内献血パネル展	県内3大学	3回開催
4	情報誌の利用強化	県内各情報誌読者(10代～30代中心)	10回掲載(キャンペーン告知含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺事業所	新規登録(5事業所)
2	休眠企業の掘り起こし	過去に実績のある企業	10事業所

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	複数回メールクラブ会員登録の増加事業	新規登録者	新規登録者400人
2	メールによる献血要請	複数回メールクラブ員	発信回数50回
3	ハガキによる献血要請	誕生日献血(400mL・成分)、成分献血	1000通/月の発送、応諾率18%

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキによる献血要請(移動採血巡回場所)	前回実施市町村での400mL献血協力者	600通/月の発送、応諾率30%
2	懸垂幕の掲示	固定施設付近通行者	1人/日の献血者増員
3	献血協力事業所(日赤有功会)の協力確保	日赤有功会に参加している事業所	2人/1移動採血、40移動採血/年

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

香川県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	高校生街頭献血キャンペーン	高校生	年間2回 50名
2	高校生献血サポーター	高校生	年間4回 80名
3	献血セミナー	大学・専門学校・高等学校	年間5回 200名
4	施設見学	小学生	年間3回 150名
5	小学校出前講座	小学生	年間10回 300名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼働50人以上
2	新規献血協力企業・団体確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社
3	休眠企業の掘り起こし	数年間・献血未実施企業・団体	協力団体50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがき・電話による依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	平日の献血者増	全献血者	2人/日を目標とする。
2	次回献血の予約	成分献血者	6人/日を目標とする。
3	献血協賛事業	献血ルーム近郊の事業所及び専門学校	2人/日を目標とする。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

広島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血セミナー	広島県大学献血推進協議会メンバー	2回実施(150名)
2	大学(短大含む)専門学校・高校献血の実施	大学生(短大生含む)・専門学校生・高校生	移動献血での献血者数:4,200名
3	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)	25,000部配布
4	親子献血教室	小・中・高校生	15回実施600名参加(出張献血教室含む)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	献血未実施団体及び献血会場周辺企業	新規献血団体10団体確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血者・血小板献血者	要請者数25,000人
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ登録者	3,000人登録 不足時にタイムリーに要請

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山口県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー開催	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	年間15回開催 参加者数 500名以上
2	はがき・電話による協力要請	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数14,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び献血会場周辺企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商工会連合	20
2	緊急時要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等による献血実施できなくなった企業・団体	30
3	成分献血協力団体の拡大	既献血協力団体及び近隣企業、個人	20

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員に対しメールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員(1,100名)	応諾者数(実協力者数)300名
2	複数回献血クラブ「チーム35」情報パンフレット作成	献血者・事業所・行政機関	作成枚数:40,000枚
3	県・市町職員献血協力者名簿の活用	県・市町職員協力者名簿提出者に対しての協力要請	応諾者数(実協力者数)1,000名
4	はがき・電話による協力要請	前回採血から一定期間未献血者	年間 30,000人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	年間を通してのキャンペーン実施(マスメディアとタイアップしたイベント企画)	400mL献血可能者	キャンペーン展開により、一稼働当たりの献血者確保を目指す。(46.0人)
2	各協力団体の実施回数増の要請(ライオンズクラブ・ロータリークラブ・青年会議所等)	各会員の更なる協力者を得る。	献血者数10%アップを図る。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

愛媛県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	学内献血回数の実施増	高校生・専門学校生・短大生・大学生	大学3回、専門学校・短大2回、高校1回
2	学内献血時にボランティアクラブへ協力依頼	学生	呼び掛け協力による献血協力者5%増
3	街頭での献血キャンペーン	18～29歳	夏・冬各1回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ等の紹介による新規開拓	新規企業ならびに、近年協力のなかった企業の開拓	18社の増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)14,000名
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者および登録者	応諾者数(実協力者数)9,000名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	愛の助け合い運動の一環として、夏のキャンペーン実施	若年層ならびに初回献血者	2台配車し、180名の献血協力者を獲得
2	はたちの献血キャンペーンの一環として、冬のキャンペーン実施	若年層ならびに初回献血者	2台配車し、180名の献血協力者を獲得
3	テレビ局と共催し、乳がん検診と共に献血を実施	若年層ならびに初回献血者	1台配車し、80名の献血協力者を獲得

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	若年者献血キャンペーン	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数400人以上
2	大学・専門学校献血の強化	大学生・専門学校生	協力者数3000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	5事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾率33.0%
2	メールクラブ会員募集資材の新規作成	400mL、成分献血協力者	登録者500名増加
3	献血実施場所の年間回数増	大学・専門学校	年間200名増加

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血推進チラシの作成	全血献血者	400mL構成比移動献血者90%
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	応諾率18%

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	大学生	平成21年度並み
2	学生献血推進協議会加盟促進	大学生等	数校増
3	若年者献血セミナー	高校生	数校増

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	新規	20~30
2	献血協賛企業活動推進	新規及び既献血団体	10

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請(献血ルーム)	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
3	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
4	DMIによる会員登録要請及びHLA登録	血小板採血可能者を抽出、DMIにて加入要請	要請者延数3,000人以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	60歳代の献血者増加事業	50~60歳代の献血者	献血者年齢構成比3%(3000人)増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

佐賀県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	高校生卒業献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校以上、400mL・成分献血参加者300人以上
2	大学・短大・専門学校生献血及びセミナー開催	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校年2回以上、参加者1,000人以上
3	献血教室	高校生	4校以上、参加者800人以上
4			

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規登録10団体
2	血液不足時の緊急処置の対応可能な企業の確保	不足時に協力可能な待機型の団体	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血及びイベントのお知らせ	複数回献血クラブ会員	応諾者数30%以上
2	パンフレット配布による登録依頼	年2回以上の献血者	献血者全体の32%以上

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	HLA血小板登録者の確保	血小板の可能な献血者	登録者を月20名、年間250名確保する

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

長崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設及び移動献血での献血キャンペーンの実施	一般及び若年者層	年5回以上のキャンペーン開催
2	学生ボランティアの研修及び新規募集活動	大学生及び専門学校生	センター主催で3回、九州ブロックで3回実施
3	大学学園祭での献血と学生ボランティアの活用	大学生及び専門学校生	年間5回以上の実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規及び掘り起こし事業所、団体等の開拓	献血未実施及び献血会場周辺事業所、数年未実施の事業所	月間5社以上の開拓を目標
2	ライオンズクラブ、青年会議所等の協賛	会員及び関連事業所	月間1団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血者並びに赤十字ボランティア研修会	複数回献血協力者及び献血協力者・赤十字ボランティア	50名
2	メールとはがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾数 100名以上
3	「献血をして映画を観に行こう」キャンペーン	400mL、成分献血協力者	70組(140名)

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	商業施設の休日献血の拡大	一般	7か所で年3回以上
2	DM及び新聞折り込みチラシによる献血依頼	一般	月10か所以上
3	高校献血での400mL献血の推進強化	高校生及び職員	10校以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

熊本県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	成人式での献血推進パンフレットの配布	県内新成人(成人式参加者)	14,000人
2	血Cオープンキャンパス	県内高校生	高校生の参加50名
3	県内全大学・専門学校への血C情報誌の配布	県内大学生専門学校生	年4回発行 県内60校に配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	広報資料(血C情報誌)の活用	献血協力企業及び団体	全献血会場及び団体へ年4回の配布
2	新規事業所及び団体の実施	新規事業所及び団体	年間10社(10団体)程度の確保
3	ロゴマークの配布	献血協力企業及び団体	提供事業所を80社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	献血登録者・依頼応諾者	応諾者数1,000人以上
3	複数回献血推進用パンフレット等作製	献血者	
4	会員向けイベントの開催と情報誌による募集	複数回献血クラブ会員・献血者	会員向けイベント2回/年 会員2,000名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	バースディハガキによる献血依頼	依頼応諾者	固定施設(ルーム2ヶ所)各3名/日の増加
2	モーニングキャンペーンの実施	ルーム来場者(午前中)	固定施設(ルーム2ヶ所)各3名/日の増加



平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

大分県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	学内献血時ハガキによる献血要請(一緒に献血)	学生(大学・短大)、専門学校生	現行2,200人を300人アップの2,500人
2	献血セミナーの開催	学推協加盟校学生	10回(参加者:500人)
3	若者が好む献血記念品の採用	学域を除く職域、地域	実協力者:300人アップ

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	送迎による献血協力団体の確保	献血会場周辺	50団体確保(実協力者:200人)
2	新規協力企業、団体の確保	進出企業、既存の組織的な団体	10団体確保(実協力者:200人)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキによる献血要請	地域・学域・官公署における献血者	実協力者:500人アップ
2	複数回献血会員への勧誘	街頭献血時の献血者	新規会員240人確保
3	ライオンズクラブ献血の実施回数増	ライオンズクラブ関係企業、団体及び地域住民	10クラブ、300人確保

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーンの実施	400mL・成分献血者	年間通算8ヶ月間実施し、年間500人確保
2	成分献血者の送迎	献血ルーム周辺企業・官公署・大学・短大・専門学校	週1回実施(2名)し、年間120人確保
3	次回の成分献血予約の推進	成分献血者	1日2名目標に年間500人確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

宮崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	ハガキによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者1,000人以上
	高校・大学・専門学校における学内献血の推進	18~22歳の若者	学内献血実施を10箇所増加
	JRC研修会	教職員・高校生	2回
	若年層献血キャンペーン(サマー献血キャンペーン)	18~29歳の若者	協力者数800人、期間中の10代20代献血者構成比30%

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規開拓企業・団体 70社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人
	新規複数回献血者確保	一般献血者	応諾者数(実協力者数)500人
	はがきによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

鹿児島県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	楽しく学ぼうキッズ献血の開催	小学生及び保護者	1日2回3日間 参加者300人目標
2	献血講座の実施	10代20代対象	10回10日間 参加者1000名
3	学生献血推進キャンペーンの実施	短大・大学・専門学校生	5回開催 参加者200人
4	はがきによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者20,000人以上
5	市町村との協働による若年層対策事業	18歳～39歳の400mL献血可能者	10回開催 参加者600名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業、団体の確保	鹿児島市地域	新規に14団体
2	献血協賛企業、団体への推進活動	献血協力企業、団体	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数2,000名
2	ハガキによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数1,700名
3	ハンド・マッサージの実施	複数回献血クラブ会員への広報	一回あたり20名
4	献血予約制度の充実	献血にお越しいただいた方	一ヶ月150名
5	救急法の一日講習会	複数回献血クラブ会員	40名×3回=120名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血推進キャンペーンの実施	400mL献血可能対象者	献血バス1稼働あたり45人
2	はがきによる400mL献血依頼	400mL献血経験者	約30,000人に郵送

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

沖縄県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校献血の推進	県内各高等学校	25校以上
2	学生献血推進協議会の活性化	各種学校・大学	在籍5校以上
3	献血教室の開催	小・中・高校、各種学校	献血教室20回、受講1,500人以上
4	専門学校献血の推進	県内各専門学校	20校以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	休眠協力企業・団体の復活	実施が途絶えている企業・団体	10団体以上
2	新規協力企業、団体の開拓	未実施の企業、団体	10団体以上
3	複数回献血協力企業、団体の開拓	年1回実施の企業、団体	10団体以上
4	街頭献血実施場所の開拓	集客力のある商業施設等	5か所以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数200名以上
2	ハガキによる献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数3600名以上
3	電話による献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数2200名以上
4	処遇品の見直し	各種依頼応諾者による献血者	処遇品6000個以上